

蘆花が愛した柏谷周辺と蘆花恒春園 散策

平成27年5月12日

柏谷 26人衆親族

倉本 俊幸

千歳村

<先輩の牧師は玉川の近くの千歳村と大東に教えてくれた>

江戸時代から幕末まで天領、明治以後、品川県、東京府を経て明治5年(1872)神奈川県になる。

郡制実施により、神奈川県北多摩郡に属し府中に郡役所が置かれた。明治12年、島山、八幡山、柏谷、廻沢、船橋、上祖師谷、下祖師谷、7か村連合の戸長役場が置かれた。

明治22年[1889]市町村制が布告され7ヶ村の他に給田村を加え合併し、千歳村、が成立し、旧村の区域は大字となった。

三多摩の東京府編入

東京府は、明治6年に神奈川県よりの編入を要望したが、不調、又、明治18年に、コレラ大流行したので、明治19年再度編入要望するも不調。偶々明治25年神奈川県による日原、檜山伐採許可が玉川の水源確保問題が起り、20年の永きにわたり政党、国政を巻き込んだ編入移管問題も明治26年4月1日ようやく解決し、東京府北多摩郡千歳村大字柏谷となつた。

蘆花の村入り

明治39年8月キリストの旧跡と、予ねてより崇敬しているトルストイを訪ね、彼の田園生活に深い感銘を受け帰国した蘆花は、元々園芸好きの父の許で育ち、一時は学業の不勉強の罰として養蚕農家に入門させられた幼いころの記憶から趣味としての田園生活は永年の夢であり憧れでもあった様です。

此のことを、靈南坂教会の先輩の牧師に話したら、玉川の近くの千歳村と言う所にキリスト教の信者が居るから紹介し案内すると云われたが、一向に連絡が無い、業を煮やした彼ら夫妻は11月中旬のある日、意を決し尋ね尋ね、ようやく千歳村に着き、村の識者で、村会議員でもあり、千歳教会の責任者であるクリスチヤンの石山氏に会うことが出来、教会の牧師に、とも言わたが、其処は彼のイメージとちがい玉川は無く一面の桑畠の中に粗末な小さな教会が在るのみで、半ば失意の中、日暮れの甲州街道を新宿に出て高麗町に帰ったのであります。その時の石山氏との初対面の様子を蘆花は、次のように書いております。

<彼らは導かれて石山氏の広庭に立った、トタン葺きの横長い家で一方には瓦葺の土蔵など見えた。

暫らくすると、草履履きの人が出て来た。私が石山八百蔵と名のる。年の頃五

十余、頭の毛は大分禿げかかり、墨々の様な顔をしている。あとで知ったが、石山氏は村の博識口利で、今も村委会員をして居るが、政争の劇しい三多摩の地だけに、昔は自由党員で壯士を連れて奔走し、白刃の間を潜って来た男であった。>

その後、村のクリスチヤンの人々の來村要請も有り、15坪の草薙の家と1反5畝の土地と言う彼には格好の物件を紹介され、船谷入りを決意し、翌年2月27日3台の荷車と共に船谷に移住をして参りました。此ら3台の荷物の殆んどが書物と植木で有ったと言う事ですから如何に彼が植木好きで有ったか推察することが出来ます。現在でも芦花公園には数多くの珍種の植物を見ることが出来ます。

